

■子どもの貧困対策について（ご意見）

1 子どもの貧困の最大の原因はなんだとお考えですか

<国政>（政府、政治）

○全て平等という憲法が守られていない。子供は宝とは名のみで防衛にかかわる費用（トランプ・アメリカ）が多すぎる。

○公的所得配分の不十分さ

○高度経済成長時代から経済政策の失敗。また、現在のアベノミクスの失敗が輪をかけている。

○国の政府の今の政治的貧困、選挙の投票率の低さ

○子どもを育てる親の貧困、（働き方改革）が労働者の側からではなく経営者側からの視点で進む。

○国の姿。子どもは家庭で育てるという現政権の姿。国費をどこに重点的使うかが間違っていると思う。今の子ども、未来の子どもに投資（このことばを使うのはイヤだが）しないで、日本の将来があるのか……。このことがまったく理解されていない政治家。大日本帝国憲法を懐かしむ現政治の目的は使いすての民の生産システムか？考える人間を育てないというのが最大の原因。

○子どもの頃の私は、家庭が貧しいため、（自分の）財産を全て騙し取られる中で、両親の経済負担を思いやる子ども、給食を残し母に持ち帰る子でした。貧しさの中に育った人間は人を思いやる心を持つが、社会の貧困が一番大きく、格差はなるべく広がらないように。政治の貧困が大きなウエートを占めている。

<自治体>

○国・自治体による援助の少なさ

○相対的貧困が再生産されてしまっていること。お金を分配することで、逆に中間層が貧困に陥るといった現状があること。

<教育>（教育支援、学校制度）

○国の政策。所得が増せば、生活は変わるはずですが。教育支援はもちろん大切ですが、裕福な人に有利になっていないのでしょうか。

○政治が国民の幸福を意識して機能していない点。学校制度のゆがみが貧困を生じている点が上げられます。

○日本が先進国中最下位で教育にかかる費用が少ないこと

<労働>（雇用・雇用形態、労働環境、賃金）

○非正規、派遣など労働の不安定化と低賃金。

○非正規

○非正社員の給与、アルバイトは学生のこずかい稼ぎ程度という考え。賃金が外国に比べて低すぎる。チェーン店の給与の規制。

○雇用の不安定化＝格差の拡大

○雇用政策、所得の低さ、非正規従業員が3分の1以上、年間夫婦で500万円以下、シングルマザーでいるとほぼ生保になるという実態がある。フランスでは児童手当が厚いと聞く。再婚しなくてもよいくらいだと聞いた。

○非正規社員が多いこと

○労働時間の長さ、最低賃金

○親の成育歴や経済状況、教育状況—地域や周囲とのつながり。子は親を選べないので。

○親の貧困

<家庭> (家族、親、友人)

○親

○連鎖 (親、友人など)

○親の経済状況や心の問題など、子どもを保護すべき立場の人が抱えている問題。

○親の貧困が最大の要因。子どもに貧困の原因がある訳ではなく、経済状況の変化 (社会環境の変化) に伴う親の貧困と考える。

○経済的な理由 (行政が支援)、育ちや経験、地域のつながり

○親の低い経済力、地域との疎外 (関わりの薄さ)

○親から子へ、子からその子への教育等の負の連鎖

○親の文化・風習・生き立ち・生活習慣

○経済格差 (親の収入・教育等による)

○拡大する格差

○親

○周囲を見わたさないこと、親が子どもや地域活動に費やす費用が捻出できない、余裕の無さ

○親の知識不足 (区からの助成やサポート、子ども食堂の存在について知らない)、ネグレクト

○親の所得減 (非正規雇用の増)

<地域>

○地域コミュニティの衰退。

○地域への無関心

- 孤独化・孤立化
- つながりの希薄さ
- 「周りとのつながり」。つながらないため、支援も受けられず、自分の家庭を相対的に見られず、どうしていいかわからないが、連鎖してしまう。
- つながりがないこと
- 地域の関わりがキハク（希薄）になったこと

<社会>

- 四半世紀の間に拡大・定着した対リベラリズムの政治的・社会的潮流。対リベラリズムの浸透を促し、自己責任論という精神的側面と生活保障の削減という社会条件的側面に変容が生じたことが最大の原因であると考え。
- 親と社会全体の不安感（国、社会、家庭、会社、健康、お金等）
- 大人社会の貧困
- 日本社会の構造的問題。日本における、NPO等の未発達さ。

<その他>

- 持続するための費用、人（ボランティア）、地域の理解
- 社会での生活の余力、ゆとりのなさ、それに伴う無関心さ
- 経済と差別
- 中途半端な日本の豊かさ、金はあるけど心は貧しい、文化的貧しさ、共感性の欠如。
- 日本国民が資本主義経済をよく理解していないので、自営業者が少なく、起業する人も少ない。工業からサービス業中心の経済に移行したが、日本国民はうまくできていない。
- 社会のしくみ、日本人特有の家意識
- 働き方改革と言うが、親世代が二人で働いてもやっと生計を営める世帯が多い。ひとり親家庭なら、なおさらのことです。こういう時代がくるとは思わなかった。
- 世間からの認知の低さ、「貧困」という言葉がもつイメージによるとつきにくさ、疎遠感

2 こどもの貧困に対して自治体としての行うべき具体策の提案があればお書きください

<制度・政策>（見直し、継続、新たな実施）

○支援制度（1回につきいくらと予算をつける）の見直し

○少し話がずれるかも知れませんが、70才以上の方が手にするシルバーパス、都から1億2000万？が（今年）国際興業、都営に行くらしいです。シルバーパス更新にかかわった私達でさえ、1000円は安すぎる。そのお金を子供達へと思いました。→太田市長に伝えたい。

○就労支援

○一人親家庭への子育て支援。優先的な保育の実施で親が働きやすい環境を充実させる。

○専門職（虐待コーディネーター、相談員など）の正規採用、育成。やる気のある人が非正規で、疲れてやめていくというところが多々あります。

○社会的な優先順位として、どうしても下位とならざるを得ない貧困問題。財政状況の立て直し、強化の為に経済・稼ぐ力の推進とその循環のしくみ。

○一人親や生活保護家庭等への就学支援に力を入れる。

○ふるさと納税、近隣区との共同事業、「板橋未来プロジェクト」として子ども食堂、フードバンク、フィット（服）バンク等を一緒にやる。

○子どもに対する直接的な支援だけではなく、親、家庭、親族に対する支援、特にひとり親、低所得者の親に対する住宅無償供給等。

○結婚する際に、婚姻届けと一緒に子どもが生まれた際にどれだけのお金がかかるのかについて、理解できているか、用紙等をつくり提出させる。

○教育費無償化（授業？以外にも）、ベーシックインカム、給食費無償化

○教育に対するコストを削減していくことはもちろん、現金支給、現物支給、を共に行うこと。

○待機児童の解消、保育所の充実

○医療・教育の無料化

○子ども支援にたずさわる団体・個人を支える。

○予防対策

○体験を増やす：（都のアンケートでは）経済的、時間的な理由で実施できない体験を全員ができることを前提条件として実施する。

○労働時間を短縮（義務教育中は1～2h減らす）。その賃金を手当する。

○生活保護や就学時援助のために支給されたお金を、保護者が流用してしまう例もあるそうです。保護者に渡すお金と直接学校などに渡すお金を選別し、本当に子どもに届くようにする。

○子ども食堂などで食べ物得ることができ、住居費の安い所に住める事

○なぜ貧困に陥っているのか、ていねいな調査が必要。親が悪いと切りすてる行政。しかし、その親の置かれている状態、病気が、大きな悩み抱えていないか（DV、アルコール・薬物依存症かもしれない）、相談する人、場所が分からないのかもしれない。きめ細かい対応が必要。

○虐待児童とその親の心理的状态をしっかりと把握してください。

○理想はベーシックインカム（財源は消費税の大幅増が必要だが、国民合意？）、現実的には民民のマッチング、場づくり広報、（自治体内の財源の傾斜が必要）

○子ども達やその親の為の居場所をつくる団体への支援、運営費・材料費などに金銭的支援、人材的支援、物資的支援、場所の提供など。

○自治体として現場に立つ。

<予算>（予算化）

○支援ができる（人）、居場所作り（もの）、予算・支援（金）を投じる。

○義務教育でもお金がかかる（修学旅行・教材費等）ものを無料化する。

19) とりあえず板橋区の貧困対策の費用を含めた、今まで以上の充実。政策が立派でもたましい（お金）が入っていないとだめですよ。

○NPO団体の資金援助

<行務>

○報告は簡潔に。報告書作成の手伝い（従来型）

○民間のサポート、自治体が行う民間行事

<周知>

○「子どもの貧困」ということの周知

○子ども食堂のスタッフをしています、現状は貧困層の子どもが来ていないと思います。貧困層の子どもに対して、チラシを渡すことを、生活保護関連の部所で、やっていただけると良いのですが・・・。

○メディアを意識した情報発信・共有。

○子どもの貧困の現実を知らない人にも実態を知らせる。

○政策はたくさん行っていると思う。貧困に対して差別的な社会を変えることが大切で、湯浅先生のような方の話をだれでも聞ける場所でおこなう。学校で教えるなど・・・地道な周知活動

○「広報いたばし」の活用、（子どもの貧困の現状や区としての取組み紹介）

○工場見学だけでなく、小さな小売店や個人事業主など、世の中にいろいろな生き方があることを知らせてほしい。

○気づいてもらう：自分が他と違うことを

○出産前後の母親・父親学級で、**(区などによる)** いろいろなサポートがあることを伝える。小・中・高校生へ授業で伝える。学級に来ない人には・・・出産した病院、小児科クリニック、保育園、幼稚園でも伝えていく。

○公共施設等への宣伝ポスター掲示依頼や認知促進。(世田谷区の公共保育園では子ども食堂等のPRはないそう。しかし、職員個人がポスター掲示などの行動はできないそうです。上からのものでないと出来ないため)

<場> (創出)

○公共圏の創出 (インフォーマルな公共圏を創出するために必要な最低限の空間や機会を整備する)

○地域のコミュニティ作りの支援。(自治法がわからない人のために)

<連携> (官民連携)

○行政としての専門的な対応能力を高めて欲しい。湯浅さんの講演では民間・個人でできること、行政にできることを分離していましたが、相互の関連が重要に思います。

○**子ども支援にたずさわる** 団体・個人と支援の必要な子ども・家庭をつなげる。この (つなげる) 動きが弱い。

<全体的な提案>

○教育の在り方を問い直すべきです。

○自治体として行うべきことは、**基礎的**な条件整備が必要であると考えます。

○清水市長の話を聞いて思ったことは、「まずはやってみること」だと思った。

○お金ではなく、子どもは地域で育てるという意識変革のための教育

○自治体は**後方**支援し、地域の方のやりやすいようにすること。口や手を出さずに、支援を広げることにより力を尽くす。

○自治体の前に政府の予算措置が**問題だ**と思う。**軍備費**になぜ無防備！国民に知らせないうちに税金を**なぜ**投入するのか？それが最大の**問題だ**と思う。各世代にわたり国民の日々の生活のために必要な予算配分をすべき。

<その他>

○気づきや先進地域から**学び**、働き方を変える。行政で**抱えこまない**→民間の声を聞く、連携する

○ユースワーカーの活用やユースワーカーへの予算をつけるなど。学校に行かない、行けない子どもを支援できるのはユースワーカーだけ。ソーシャルスクールワーカーだけでなく、ユースワーカーの配置検討をして欲しい。

注) ユースワーカーとは若者の成長を手助ける専門誌スタッフのこと。イギリスを始めヨーロッパ各国で養成が取り組まれ、国家資格となっている国もある。日本にはイギリスのユースサービス/ユースワーカー養成が行われてきている。(京都ユースワーカーサービス協会より)

○板橋区の私立中学校受験率が都内で下から 2 番目。小学校から塾に行けない子は差がつく。

○私が住んでいる豊島区は大型開発に税金を使っているのに、対策は無いものと思う。

3 子どもの貧困対策として個人でできそうだと思うことについてお書きください

<周知>

- まわりの人に伝えていく。情報発信。つながりをつくっていく。
- 周囲への情報発信・啓発
- 制度など教えて、情報難民を無くす。
- 自分が所属するコミュニティへの情報提供や認知徹底。特に学生という身なので、所属コミュニティは多く（ex. 学校、活動団体）、発信材料にツールは多い（SNS、ICTの活用）ため、出来ることは多いと思う。

<支援>

- さまざまな支援、ボランティア活動
- 子どもの見守りや親の話し相手
- 声かけ、つながる場作り
- 親の話を聞いてあげる。相談できる関係作りをする事。
- 湯浅氏の話に感動し、“いるだけでならできそう”と思いますが・・・
- 今は、児童虐待対応をすること
- ボランティア
- ちょっとしたお手伝いの積み重ね
- 児童養護施設で子どもの話し相手ボランティア。職場（公安職）で何かできないか考える。
- できるだけ子どもあいさつをする。
- 自身のボランティア活動と体験学習。
- 自分の子どもや甥っ子、姪っ子はもちろん、多くの人と接する機会を設ける。
- 見守り、子ども食堂の手伝い
- 子ども食堂への継続的参加。
- 区別なく接すること→貧困の子にどうするではなく全ての子に
- 年老いた身では何も出来ることはないが、子ども食堂などで必要品がわかれば、差し入れくらいは出来る。
- 子ども食堂などを手伝う。知り合いの子どもたちと一緒に食卓を囲む。
- 知ること、伝えること、ボランティア等への参加
- 学習支援や、相談、話し相手としてのボランティア。
- 地域で子どもにあったらアイサツ（挨拶）すること

<寄付>

- たまに余ったポイント等を貧困支援団体に寄付します。

○「つながり」作りに参画できない方も多いかと思います。一定の収入の方は「年収の1%」を寄付しては如何でしょうか。

<居場所>

○居場所作り

○一人で親が暮らしている町で、場を開いてみたい。

○子育て中の親の話（困りごと、悩みごとなど）を聞くサロンのような場が提供できないか・・・とも考える。

○子どもの居場所作り。

○勉強したい子、つながりたいけどつながれない子、愛に不足している子、虐待をしている親の貧困状態を把握し、行政に相談できる場所を作る。

<連携>

○子ども食堂は食材の寄付などに支えられています。個人からだけではなく、肉、魚など、業者さんとのつながりを工夫していただけたらと思います。

○地域のコミュニケーション作り、まち作りに参加

○周りへの感心

○地域活動に参加する。

○今月ハロウィーンで近所のこどもにお菓子を取りに来てもらった。近所の子どもと友だちになる。

<要望・提案>

○自分の周りに貧困だと感じる子供を目にすることがない。場所を設置するより小児科？（栄養状態、親との関係）の医者を巻き込んだり、板橋の優良企業タニタ等を巻き込んだりして欲しい。

<自己啓発>

○学びつづけるということ、社会の実相を知ろうとすること

○関心をもつ

○仕事として、身近なこととして、意識を持っていく。

<その他>

○商業資本主義経済学習プログラムを作成しています。

○特別なことでなく、やれることをできるだけやること、ムリしないこと

○関心を持ったら行動に移すことと思う。